

## 島の暮らし：妖怪とお守り

奄美大島には、何世紀にもわたって日本の民話や郷土芸術に登場する伝説上の生き物「妖怪」がいるので、島を訪れる際は見逃さないように気をつけましょう。

ケンムンは子どもくらいの身長で、赤い目と細長い足と腕が特徴です。ケンムンには日本で最も有名な妖怪のひとつである河童という水の精や、沖縄の木の精であるキジムナーと多くの共通点があります。ケンムンは赤みを帯びた毛に覆われており、山芋のような匂いがすると言われていますが、外見を変えたり、植物に化けたり、姿を消したりできるとされます。河童と同じように、ケンムンの頭には自身の力の源となる液体を蓄える窪みがあります。また、相撲が大好きで、出会った人によく勝負を挑むとも言われています。

### 目撃したときの対処法

ケンムンの魂は大きなガジュマルやアコウの木に宿っており、その木を切ると呪われると信じている人もいます。夜になると浜辺に行き魚や貝類を食べるケンムンは、普段は人に危害を与えることはありません。それどころか、森から薪を運んでいる人がケンムンに助けられたといった伝承もあるのです。しかし、ケンムンはいたずら好きで、食べ物を盗む、人間に化けて道に迷った人に間違った道を教えるなどの悪さをすることもあります。長年の間にこの妖怪の目撃情報が減ったのは、おそらく、今ではガジュマルとアコウの木がほとんど立っていないためでしょう。しかし、もしケンムンを見かけたら、その場から立ち去るのが一番です。伝説上の生き物と相撲を取る羽目になるよりは安全を優先しましょう。

### スিজガイのお守り

奄美大島には古くからの言い伝えが深く根付いています。島の集落を訪れると、門や塀の角、家々の玄関などにスিজガイ (*Lambis chiragra*) が置かれているのを目にするかもしれません。この大きな巻貝は全長 20cm ほどで、形が水という漢字に似ていることから日本語でスিজガイ (water character shells) と呼ばれています。昔からスিজガイは悪いものを祓い、住居を火事から守ってくれると信じられています。